

自主映画「東九条」の世界～圧倒的な差別と貧困～

ごあいさつ

自主映画「東九条」は、東九条の青年や「京都セツルメント※連合会」の学生たちにより1967（昭和42）年に結成された「自主映画“東九条”製作上映実行委員会」による署名活動やカンパの結果、翌年から撮影が始まり、1969（昭和44）年に完成しました。撮影から半世紀を迎えた今年、この映像を見ながら当時を振り返りたいと思います。

この当時の東九条は、就業や住環境、教育環境の面で厳しく、特に住環境の面では、ひとたび火事が起これば多くの人々は焼け出され、時には逃げ場がなく焼け死ぬこともありました。実際に撮影中にも火事があり、撮影に参加していた青年の家が燃えて、映画はその支援の様子を克明に映しだしています。映画の撮影に際しては、地域の多くの団体による協力、支援があり、厳しい中にも支え合う良き時代を映しています。

本企画展では自主映画「東九条」が捉えたこの時代を見詰め、圧倒的な差別や貧困の問題を問うて、人権について改めて考えることを目的に様々な資料を展示します。崇仁地域への京都市立芸術大学の移転が計画され、東九条も文化や芸術を基調にしたまちへ変貌を遂げようとしている今日、映画が捉えている実態を映像や様々な資料を通して見詰め直して、まちの在り方をもう一度考える契機にしたいと思います。

※セツルメント：宗教家や学生が都市の貧困地域に移り住み、貧困に苦しむ人々と生活を共にしながら生活の改善を目指す運動

この映画は東九条を少しでも良くするようと思い、がんばっている東九条の青年とセツルの学生が東九条の皆さんをはじめとする多くの人の協力で作りあげた

そのです、東九条では苦しい生活をさせられ、不当な差別を受けて暮らしている人々の中にも、そのような差別や貧乏を矛盾として怒りを感じるのではなく、まるで当然

のこのように思っている人がまだまだたくさんいます。私たちは「東九条のありのまま」を映画にとりました。私たちは、この映画で多くの人々に、特に東九条の人々に、もう一度東九条の

問題や矛盾を考えなおしてもらうよう訴えます。

東九条

自主映画「東九条」製作上映実行委員会

スタッフ

実行総監 森口
カメラマン 坂本
監督 山内
脚本 山内、越野
資料 畑中、中沢

情宣 市川、伊藤
道具 柴田、佐藤
会計 中村
カメラ 小林、水村
音楽 清水

協力団体

生 健 会
九条 診療所
民主青年同盟東九条班
日本共産党東九条支部
解放同盟七条支部